

医労連共済 加入拡大・推進ニュース 22

2013年 2月 28日発行 日本医労連共済事業局

各組合の奮闘で共済拡大ゾクゾク

学習会が各地で開催されていますが、実際に共済加入をすすめるのは、単組と支部です。この間の単組・支部の奮闘を紹介いたします。

書記長自ら説明行脚・・・ 高知県医労連

高知県医労連では昨年12月から、加盟全組織で医労連共済の学習会を実施しようと決定し、頑張っています。昼休み、各単組・支部の執行委員会前後など、説明会の形式は問わず「とにかくやる!」、「一人でも説明を聞きたい人がいればやる!」と、あえてハードルを下げていましたが、実際は一人どころか二ケタの参加者です。精華園労組で12月17日(月)12時半から昼休みを活用したプチ説明会を実施し10名、血液センター労組は1月15日(火)19時半から執行委員会終了後10数名で実施、高陵病院労組は、1月30日(水)17時45分から説明会を実施、なんと30人が参加!日常の単組支部レベルの説明会を広げていくことが組合員の信頼にもつながるんだと確信を深めた金子竜太書記長からの報告。

一律共済活用で一気に過半数組合に!!

京都・洛西ニュータウン労組

7年前、関西医大付属病院から個人病院に譲渡され、また昨年1月に突然、清仁会・シミズグループへの譲渡が発表。譲渡によって、みんなの賃金が減る、労働条件が悪くなるのでは、と怒りが爆発。結成当初は組合員14人だったのが、50人、90人とどんどん組合員が増え、2・28現在で172人になりました。労働組合への加入は、賃金労働条件を守ること、そして共済が大きな力になっています。共済に入れるなら組合に入るという加盟者も。昨年、清仁会と初めての交渉を行い、組合の要求をぶつけました。清仁会は、すでに出来上がったスケジュール・就業規則で進めてきており、交渉は難航しました。何度も交渉を重ねる中で、一定の改善は勝ち取りましたが、生涯賃金では大幅に減る人もでてきます。清仁会の決めた賃金の上限を超えている職員は、今年から定昇もなくなると言われています。こうした不当な対応を変えさせるべく奮闘中です。(松本隆浩副委員長からの報告)

全国交流集会で担当者が奮起!! 全医労南和歌山

9月に開催された全国推進会議で拡大してほしいと訴えられ、共済担当者が支部に帰ってすぐに保育園の先生に働きかけ、2年ほど前から声をかけて興味を示してくれていた7人が加入してくれました。

また、ピジョンの委託切り替え時期も控えて組合員を増やそうと非常勤の先生5人に声をかけ、組合に入ってもらうこともできました。組合員の助け合いの共済を増やしていきたいと思えます。(和歌山県医労連より)